



## 第64代理事長 高尾 篤史

この度、現役会員の皆様方からのご推薦を頂き、第64代理事長を仰せつかりました株式会社菓匠庵たかおの高尾篤史です。

この歴史あるクラブの理事長という大任の重みに身が引き締まる思いです。

約10年前から理事長直轄の特別部として長期的継続的な視野の元に会員開発推進部は発足しました。皆様方のご協力もあり新入会員の方も入会していただいております。ここ数年微増、微減をくりかえしております。しかしながら今後、現役会員が減少傾向にあるのが現状です。

この先どのようなかたちで多くの方々に大阪菓業青年クラブの存在、活動内容を伝え、興味を持っていただき入会していただけるのか、たとえば情報発信にSNSなどのツールを使い裾野を広げるのも一つの方法だと思います。

そして入会していただいた方々全員が事業に積極的に参加していただけるように導き、魅力を伝える努力もしていかなければなりません。

新入会員の方が青年クラブに溶け込んでいくためには班単位での活動が非常に有効だと私は感じています。今現在、5班ある中で現役会員数の多い班、少ない班が存在しますが、私が入会した10年前の中班は、現役会員が前理事長の綱木先輩一人でした。しかし現在は現役会員15名と最大人数となっております。今現在人数の少ない班も、増員できる可能性は無限にあると思います。

これら課題を今一度原点に戻り、方向性を探り、どのように時代背景に合うように改革を行えばいいのか考えていかなければなりません。

当青年クラブの5年後、10年後、おとずれる可能性のある未来に向けて、本年度より会員開発推進部の中に組織改革委員会を設置しOB同窓会と繋がる形で、この先長い歴史を刻んで行くために意見交換をおこない改革を進めたいと思います。

私は入会した10年間で多くの方々と出会い、いろいろな事業等に参加し、そして事業を企画し、仕事との両立で大変だったこともありますが、たくさんの経験を積ませて頂きました。そのたくさんの経験が今の私を形成しています。実際、先代が急逝した3年前も、出会った方々に支えられ、励まされ、そして経験で得た多くの知識で乗り越えることができました。

生活環境も速いサイクルで変化している中で、私たちが取り扱っている商品へのニーズも多様化しております。後継者不足などによる事業者の減少、原材料の高騰、3年後の表示法の改定、中小事業者での枠組みは決まっておりますがハサップの全面義務化など、クリアしていかなければならない課題がたくさんあります。この課題を乗り越えるために、たくさんの方々と意見交換する場として、自己研鑽の場として、そして実益を得る場として、皆様には大阪菓業青年クラブをどんどん活用し、利用していただきたいと思います。

最後になりましたが、至らぬ点多々あると思いますが、現役会員、一致団結し、大阪菓業青年クラブのさらなる発展、伝統の継承に努力してまいりますので、OB会員並びに協賛会員の皆様におかれましてはなお一層のご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

はなはだ簡単では御座いますが、理事長就任のあいさつと代えさせていただきます。

大阪菓業青年クラブ 第64代理事長 高尾篤史